**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選会員及び一般部門　エッセイ募集：2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。※パワーポイント使用可。【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：**【私から始まる平和統一】

**お名前：**　丸山未央

(下記より本文をご記入ください)

　私が初めて韓国を訪れたのは、高校２年の夏でした。当時私は長崎県の大村市に住んでいて、姉妹都市の釜山市との交流事業に参加してのことでした。

　初めての海外旅行で、韓国へ。ワクワクしながら飛行機に乗りました。しばらく空の旅を楽しみ、アイスクリームを一つ食べ終わるともう到着！近っ！！それが韓国の第一印象でした。実際地図で確認すると、東京よりもずっと近い場所だったのです。

いよいよ現地での交流が始まりました。初めて行く場所、初めて会う人、人は初めてに遭遇するとき、少なからず緊張し、自分を守る壁を作りながら対する、そのような心理が働くでしょう。私もそうでした。仲良くなれるかな・・ちょっと不安を感じながら、市役所に着くと、釜山市の市長さんと十数名の中学生、高校生が迎えてくれました。姉妹交流の時間がスタートし、私とペアになったのは、中学2年生の女の子でした。初めての場所でも、初対面の人でも、心の防御壁を越えて、心を開いて交流の一歩を踏み出しました。韓国語の自己紹介と簡単な挨拶、私が話せたのはそれだけでした。相手も日本語が話せるわけではありませんでした。思い切って心の壁を越えて覚えたての韓国語を話してみました。身振り、手振りとアイコンタクトで、思いのほか心が通じ合う感覚がありました。とても嬉しかったです。ペアの女の子は私よりも３歳年下でしたが、日本では感じられない深い情、泉のように次々と自然に湧いてくる情に触れ、衝撃を覚えました。まるでお姉さんのように、気遣ってくれて、何とも懐かしい今まで味わったことのない情の世界でした。その記憶が今でも鮮明に残っています。私の中での韓国は、日本よりも近い国、とても情が深くて、温かい人々がいる国、でした。韓国って、本当にいい国だな…と思いました。

　それから十数年が経ち、私は名古屋で家庭を持ちました。マンションの同じ階に日韓家庭が住んでいました。奥さんは、わたしより一つ年上のお姉さんでした。私は３人、そのお姉さんには２人の子どもがいて、年齢も近かったので、挨拶してみました。はじめの一歩は勇気がいりますが、その壁を越えると全く新しい世界が開かれていきます。すぐに仲良くなることができ、それからは毎日のように行き来するようになりました。子どもが病気の時は、他の兄弟を預かってもらって、その間に病院に連れていったりしました。仕事から帰ってきて夕方遊びに行くと、「お疲れ様」と、冷たいカフェオレをいつも出してくださいました。ご飯を一緒に食べたり、遊びに出かけたり、私は日本人以上にこの韓国のお姉さんがとても慕わしく、安心できました。韓国の文化や考え方、習慣の中には日本とは違うものは確かにあります。だけど違うことが壁や溝や心の距離に直結するわけではなく、理解する努力がなされているか否か、わかりあえるかどうかだと思います。「家族」になった瞬間に、受け入れの幅が大きく広がることを感じました。慕わしいお姉さんだから多少違いがあっても、そういうものなんだな…と、案外受け入れられる自分もいました。むしろ、その世界をもっと知っていきたい、もっと理解したいそう思いました。

　人の心に国境はあるのでしょうか？私にはありません。ただ目の前にいるのは、優しいお姉さん、家族そのものでした。

　未だ世界は、戦争、紛争が絶えません。同じ国の国民同士であっても、考え方や価値観の違いで、政治的理由で、争いが絶えないのが現状ではないでしょうか？私たちを平和から遠ざけているものは、実のところ、国の違いでも、民族の違いでも、宗教の違いでもなく、「私」の考え、価値観、常識、感覚とのギャップがあるからではないでしょうか？他を受け入れられない、違いを受け入れられないこと。どちらが正しい…ということを越えて、「私」にとって邪魔なもの、不都合なもの、合わないもの、不利益を被るもの、いいと思えないもの…そのような、人の主観的な理由によるものが多々あるのではないでしょうか？

　人の価値観は多様です。違うから排斥するという時代から、違いから学ぶ、発展的な関係を築いていくことが、これからの時代に必要だと思います。考え方の違い、立場の違い、感じ方の違い、文化、伝統、習慣の違いがあることで、新たな視点で物事を捉えることができるようになったり、自分が不足しているものを補えたり、未知の世界が開かれる瞬間になると思います。

違うからこそ貴い、そのような文化が構築されていくことを望みます。多くの人々の多種多様な角度の考え方を尊重し、より立体的に物事を判断し、発展していく要素としていくこと、そして、お互いをリスペクトしていける社会となっていけたら、きっと平和が実現できていくのではないかと思います。

人々が、お互いを理解しようと、まず最初の一歩を踏み出すこと。そしてお互いを尊く思い、家族のような関係を築いていけたら、平和統一は必ず訪れると信じます。